筑波大学
University of Tsukuba

平成29-30年度 筑波大学概要

IMAGINE THE FUTURE.

「開かれた大学」

筑波大学は未来を構想し、その実現に挑むフロントランナーです。

筑波大学は開かれた大学、学際融合・国際化への挑戦を建学の理念とする、未来構想大学と自らを位置づけます。文系・理系から体育、芸術に及ぶ学問を探究し、グローバル・リーダーの育成を目指す、真の意味での総合大学＝Universityです。最先端研究拠点 TSUKUBAの中核として、人類が共存共栄する世界の実現に向かって行動します。

目次

4 大学の沿革／校章

研究

6 未来に羽ばたく次世代研究者

7 世界を変える最先端研究

教育

8 学際融合・領域横断的な教育システム

10 学群・学類

14 大学院研究科

16 グローバル教育院

18 寄附講座・寄附研究部門

20 特色ある学生支援

ベンチャー支援と産学連携の推進

21 共同教育研究施設等

国際交流

22 留学生の受入／学生の海外留学

23 海外オフィス

24 附属学校

26 附属図書館

附属病院

27 本学の特色

28 建物配置図

30 アクセス

大学の沿革／校章

筑波大学は、1973(昭和48)年に文系・理系から体育、芸術に及ぶ学問を探究する総合大学として筑波研究学園都市に開学しました。開学から40余年の新しい大学ですが、そのルーツは、1872(明治5)年に日本で最初に設立された高等教育機関である師範学校までさかのぼります。日本の近代化の礎となる教育を支えた師範学校からの伝統に甘んじることなく、筑波大学は、この筑波の地で新しい「改革」と「挑戦」に挑み続けています。

校章

筑波大学
University of Tsukuba

本学の校章「五三の桐葉型」は、1903(明治36)年に改定された東京高等師範学校生徒徽章に始まり、1949(昭和24)年製作の東京教育大学学生バッジにも受け継がれました。1974(昭和49)年、本学評議会において「校章については東京教育大学の伝統を引き継ぎ」桐の葉とすることが承認されました。「五三の桐」と呼ばれる図形には、我が国の伝統的な紋章一般がそうであるように多くのヴァリエーションがありますが、本学の校章は花の部分のみ「蔭」(アウトライン)で表される独特のものです。

筑波研究学園都市

筑波大学がある筑波研究学園都市は、我が国最大の最先端研究開発拠点です。国立の研究機関の約3割にあたる30以上の研究機関が集積し、約2万人の研究者が研究活動を行っています。筑波大学はその中核的な役割を担っており、イノベーションを生み出す新たな産学官連携拠点の創造を目指しています。

東京から筑波へ

前身校である東京教育大学は、文・理・教育の3学部がある大塚キャンパスと体育学部のある幡ヶ谷キャンパス、農学部のある駒場キャンパス、それに光学研究所のある大久保地区などの4校を包括して設置されました。当時のメインキャンパスとしての大塚地区はとても狭く、また体育・農学の両キャンパスとは離れている地理的な問題があったことで、大学の移転を考えていた折、政府の研究学園都市構想があり、「筑波」への移転が1973(昭和48)年に決定しました。

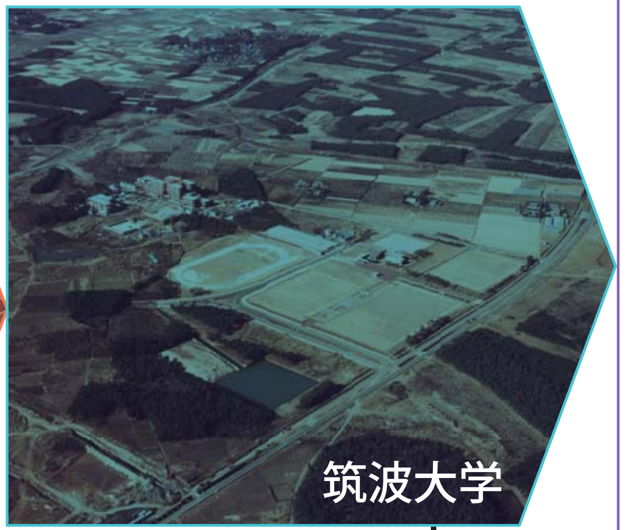
創起からの沿革図

1872 師範学校
1873 東京師範学校
1878 体操伝習所
1886 高等師範学校
1902 東京高等師範学校
1922 臨時教員養成所
1940 傷痍軍人中等教員養成所
1944
1945 特設中等教員養成所
1948
1929 東京文理科大学
1924 体育研究所
1941 東京高等体育学校
1944 東京体育専門学校
1899 東京帝国大学農科大学農業教員養成所
1937 東京農業教育専門学校
1921 文部省図書館員教習所
1925 図書館講習所
1945
1947 図書館職員養成所
1964 図書館短期大学
1979 図書館情報大学
2002

湯島の土地には、かつて幕府直轄学校として昌平坂学問所がありました。1871(明治4)年に閉鎖され、翌1872(明治5)年、その跡地に設立されたのが師範学校です。

1949

1973 写真は開学当時のもの



研究

筑波大学は、広範な学問分野にわたって高度で先進的な研究力を有し、それに裏打ちされた学士課程から博士課程までの質の高い教育を通じて優れた人材を育成する研究型総合大学です。各分野における専門性を追求すると同時に、学際的な連携・協力を積極的に推進し、世界的に卓越した教育研究を展開することを通じて社会に貢献することを目指しています。

未来に羽ばたく次世代研究者

小児患者を抱える家族のエンパワメント

小児保健看護学

小児患者をもつ家族を中心に据えた研究プロジェクトを推進しています

わくみず りえ
涌水 理恵　医学医療系・准教授

家族が何らかの課題に向き合い、自分たちの生活調整や改善を図る力を有すること（他の家族やサービスシステム、社会などの外部と協働する状態や能力も含まれます）が「家族エンパワメント」です。健康問題を有する子どもを養育する家族のエンパワメントに関する実証データに基づくケアを実現するために、患者家族の「セルフケア機能」や「エンパワメント」の過程を把握することで、家族にとって適切なサポート態勢の充実を図ると同時に、研究知見を蓄積して成果を発信できる人材の育成を目指しています。

リアルに美しく情報を伝えるデザインの研究開発

メディア創造分野

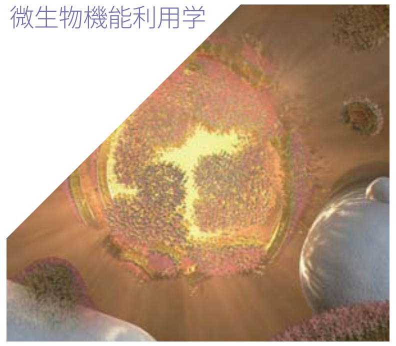
ダイナミックでインタラクティブな情報表現の研究と制作を実践しています

きむ　さんて
金 尚泰　図書館情報メディア系・准教授

私たちが五感を通して感じる情報のうちでいちばん比率の高い視覚情報をより効果的に活用するために、IT 技術や工学にデザイン性を活かすというコンセプトから、リアルで美しい三次元 CG 画像の研究と制作を進めています。その活用領域は、CG アニメやゲームの制作のみならず、リアルな医学書や図鑑の制作、芸術鑑賞などへと大きく広がっています。

細菌間の相互作用・コミュニケーション

微生物機能利用学



集団を形成した細菌が示す驚異的なパワーの解明を目指しています

とよふく まさのり
豊福 雅典　生命環境系・国際テニュアトラック助教

細菌は、同一の遺伝情報をもつクローンでもそれぞれ個性を有しています。一方、集団を形成した細菌は、感染症や環境浄化において大きなパワーを発揮します。"個" が集まって "集団" を形成・維持する際の相互作用、細菌間コミュニケーションが注目されています。そうした仕組みを解明することで細菌制御技術への応用を目指しています。

世界を変える最先端研究

「医療用 HAL®」に代表される革新的サイバニックシステムを研究開発する世界トップのイノベーション創出拠点
新学術領域【サイバニクス】による未来開拓への挑戦！

サイバニクス研究センター

さんかい　よしゆき
山海 嘉之
システム情報系・教授
センター長
内閣府ImPACTプログラムマネージャー

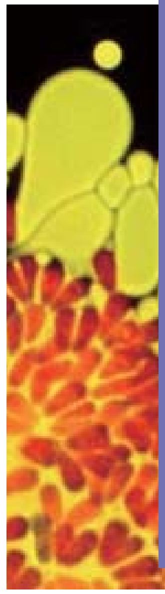
サイバニクス研究センターは、【サイバニクス：人・ロボット・情報（AI, Big Data）系の融合複合】を駆使し、少子化・高齢化等による人や社会の課題解決に向けた革新技術の研究開発、医療・福祉・生活・労働・生産等の分野における新産業創出、それを担う未来開拓型人材の育成を同時展開し、好循環のイノベーションを実現する世界トップの「イノベーション創出拠点」として、人や社会のための未来開拓を力強く推進しています。
世界初のロボット治療機器「医療用HAL®」は、2013 年には欧州で医療機器として認証され、日本においても 2015 年に「新医療機器」の承認という快挙を達成。
サイバニクス革命：人とテクノロジーが共生する未来社会「Society5.0」「重介護ゼロ® 社会」の実現に向けた研究開発に挑戦しています。

睡眠覚醒機構の解明を目指し、基礎から臨床までを網羅する世界随一の研究拠点
現代神経科学最大のミステリー、睡眠の謎を解き明かす

国際統合睡眠医科学研究機構(IIIS)

やなぎさわ　まさし
柳沢 正史
機構長 / 教授

柳沢正史機構長らは、睡眠覚醒制御において重要な役割を果たす新規神経ペプチド「オレキシン」を発見し、神経ペプチドにより睡眠覚醒が制御されていることを世界に先駆けて示し、睡眠学・代謝学の新たな研究領域を切り拓いてきました。しかし、睡眠覚醒調節の根本的な原理や、そもそも「眠気」の神経科学的な実体は一体何なのか、未だに明らかになっていません。これら神経科学最大の謎に挑むべく、国際統合睡眠医科学研究機構では世界をリードする研究者が一丸となって最先端の研究を行っており、目覚ましい成果を挙げています。



石油代替燃料として期待される、藻類バイオマスエネルギーの実用化を目指す国内最大規模の藻類バイオマス研究拠点
藻類オイルでエネルギー問題に貢献

藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター

わたなべ　まこと
渡邉 信
生命環境系・特命教授

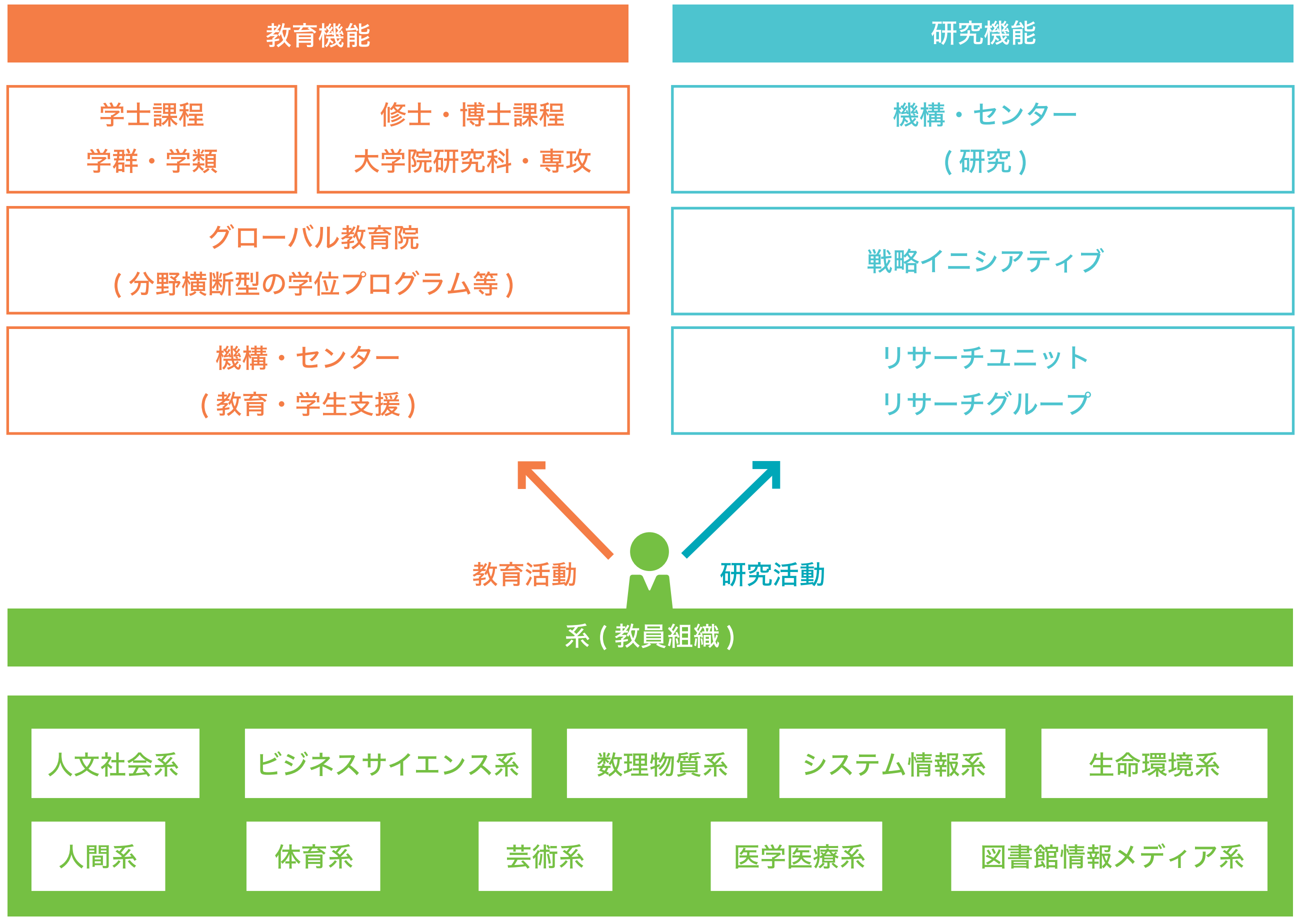
藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センターは、CO_2 削減効果とエネルギー生産性が高く、かつ食料と競合しない藻類の基礎研究から実証研究及び産業応用までを一貫して推進し、石油に代わる藻類オイルの実用化及び新産業創出を目指します。本センターは、約50 名の多分野の教員からなる国内最大規模の藻類バイオマスのセンターで、主たる資金を外部資金で運営する本学の「開発研究センター」第 1 号です。藻類の培養～収穫・濃縮～エネルギー変換・生産の全バリューチェインと他の再生可能エネルギーをカップリングし、エネルギー収支、CO_2収支およびコスト収支が成立する藻類バイオマス・エネルギーシステムを開発します。

教育

筑波大学は医学・体育・芸術も有する総合大学として、学群・学類等の壁を低くして、学生が専門分野以外にも幅広い教養を身に着けることを可能にしています。

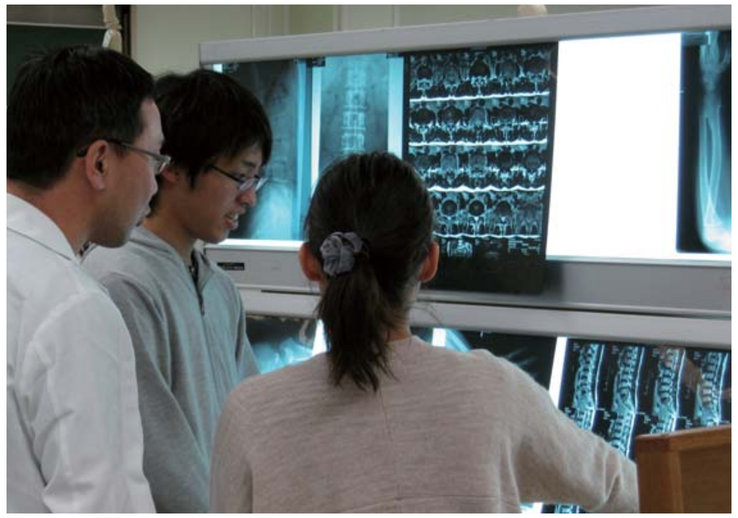
学際融合・領域横断的な教育システム

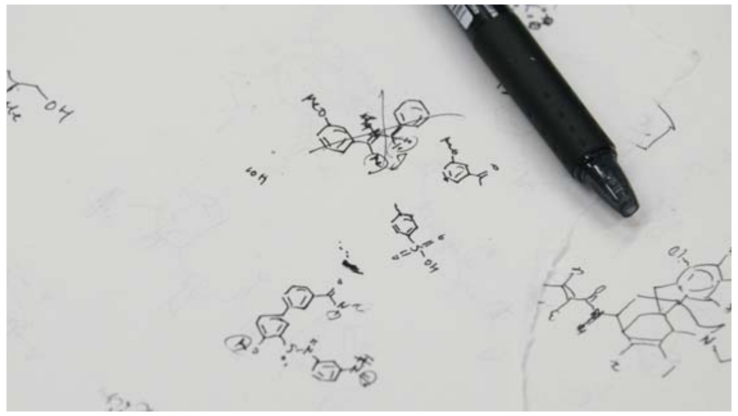
筑波大学の教員は「系」に所属し、基盤的な研究を行いつつ、学群・学類、研究科・専攻、センター等それぞれの教育研究組織の目的に即した教育研究を担います。教員の所属組織を個々の教育研究組織から独立させることにより、各教育研究組織に異なる分野の教員が参画することが可能になり、学際融合・領域横断的な教育研究、新たな教育研究プログラムの創出を柔軟に行うことができます。



筑波大学独自の新たな教員組織「系」

多様化・高度化する教育研究のニーズに的確に対応していくためには、各教育研究組織が、固定的・閉鎖的になることなく、学問の進展や社会の要請に応じて、新たな教育研究プログラムの創出や組織の改組再編を柔軟に展開していかなければなりません。筑波大学では、教員の所属組織と個々の教育研究組織の編成の在り方を区別した新たな教育研究体制を構築することとし、独自の教員組織として「系」を設置しました。現在、広範な学問分野にわたる 10 の系を設置しています。





学位プログラム制への改革

国際的通用性・互換性のある教育システムの構築

学位の取得を目指す学生の視点に立って、その学位レベルや分野に応じて修得すべき知識・技能及び能力等を身に付けることができるように、教育プログラムを学生中心に体系的に整備する教育システムが学位プログラム制です。既存の組織の枠を超えた学術分野を横断する学位プログラムを束ね、運営するのが「グローバル教育院」です。

学位プログラムの先行例

2012

グローバル教育院に開設

ヒューマンバイオロジー学位プログラム

人間総合科学研究科に開設

スポーツ・オリンピック学学位プログラム

次世代健康スポーツ科学学位プログラム

2014

グローバル教育院に開設

エンパワーメント情報学プログラム

システム情報工学研究科に開設

社会工学学位プログラム

サービス工学学位プログラム

2015

グローバル教育院に開設

ライフイノベーション学位プログラム

2016

人間総合科学研究科に開設

スポーツウエルネス学位プログラム

2017

生命環境科学研究科に開設

山岳科学学位プログラム

教育研究科に開設

教育学 (国際教育) 修士プログラム

グローバル教育院に開設

地球規模課題学位プログラム (学士)

学群・学類

学群・学類は、他大学の学部・学科に相当する学士課程の教育を担います。学群は、専門領域を中心としていくつかの学問分野を総合した形で構成されています。また、専門的な能力を必要とする分野（体育・芸術）には、一貫教育を行う専門学群が置かれています。学類は、学群に置かれ、学生の教育に責任を持つ組織です。学生は学類に所属します。

人文・文化学群

人文学類　哲学　史学　考古学・民俗学　言語学
比較文化学類　比較文化
日本語・日本文化学類　日本語・日本文化学

人文・文化学群は、基礎的な分野の教育を担う人文学類、学際的視点を重視した教育を行う比較文化学類、国際社会の中で日本語及び日本文化の発信を目指す日本語・日本文化学類の３つの学類から構成されます。優れたコミュニケーション能力と人に対する豊かな洞察力をもち、グローバル化する世界の中で活躍できる人材を育成します。

〇 学群 URL　http://www.humcul.tsukuba.ac.jp

社会・国際学群

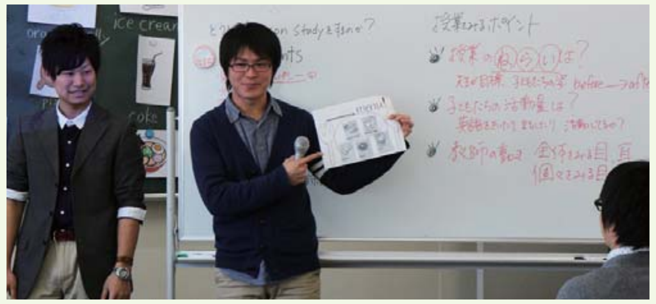
社会学類　社会学　法学　政治学　経済学
国際社会科学
国際総合学類　国際関係学　国際開発学
国際社会科学

社会・国際学群は、社会学・法学・政治学・経済学などの社会科学分野の総合的な専門教育を担う社会学類と、社会科学を中心に、文系・工学系の学際・融合教育を担う国際総合学類から構成されます。現代社会や世界で生起する諸問題を的確に把握する理解力と独創的な分析力を備え、社会の要請に対応でき、国際舞台で活躍できる人材を育成します。

〇 学群 URL　http://www.soc-int.tsukuba.ac.jp

人間学群

教育学類　教育学
心理学類　心理学
障害科学類　障害科学



人間学群は、教育学類、心理学類、障害科学類の３学類から構成されます。学類間の垣根をできるだけ低くし、３学類の基幹授業（教育学･心理学・障害科学）を全ての学群生が履修できるようにしています。その後、学類の専門分野を積極的に学習します。人間についての深い理解と発達支援を行うことのできる人材を育成します。

〇 学群 URL
http://www.human.tsukuba.ac.jp/gakugun

生命環境学群

生物学類　生物学　生命環境学際
生物資源学類　生物資源科学　生命環境学際
地球学類　地球環境学　地球進化学　生命環境学際

生命環境学群は、生物現象の本質及び生物学の研究方法と先端研究の意義を理解する生物学類、食料の確保、環境と調和した生物資源の開発と保全を追及する生物資源学類、地球の大気圏・水圏・岩石圏で生じる諸現象、及びそれらと人間活動や生物との関わり合いを、地球を一つのシステムと捉えて探求する地球学類の３つの学類から構成されます。問題発見・解決型能力を身につけ豊かな人間性を育むことで、国際的視野に立って活躍できる未来創造型の人材を育成します。

〇 学群 URL　http://colleges.life.tsukuba.ac.jp

理工学群

数学類　数学
物理学類　物理学
化学類　化学
応用理工学類　応用物理　電子・量子工学　物性工学　物質・分子工学
工学システム学類　知的工学システム　機能工学システム　環境開発工学　エネルギー工学
社会工学類　社会経済システム　経営工学　都市計画

理工学群は、理学と工学の６学類で構成され、基礎から応用までの幅広い分野を学びます。持続可能な社会に必要な幅広い教養、論理的かつ柔軟な思考力、実践的技能、基礎から応用に至る専門性を習得できます。また、知的創造、問題発見・解決の能力を有する広い視野と豊かな人間性をもつ人材を育成します。

〇 学群 URL　http://sse.tsukuba.ac.jp

情報学群

情報科学類　ソフトウェアサイエンス
情報システム　知能情報メディア
情報メディア創成学類　情報メディア創成
知識情報・図書館学類　知識科学
知識情報システム　情報資源経営

情報学群では、情報に関する基礎から最先端までのすべてを扱います。情報学群は３学類から構成され、情報科学類では情報に関する知識とその工学応用についての体系的な学問、情報メディア創成学類ではコンテンツとネットワークに関する情報技術とコンテンツの流通・利用を支える技術、知識情報・図書館学類では知識や情報の流通・蓄積の成り立ちやそのシステムの在り方を学びます。社会の問題を解決し、人類の知的営みを発展させることができる人材を育成します。

〇 学群 URL　http://inf.tsukuba.ac.jp

医学群

医学類 医学　新医学
看護学類 看護学　ヘルスケア
医療科学類 医療科学　国際医療科学

医学群は、医学類・看護学類・医療科学類の３つの学類から構成されます。いずれの学類でも医療職を目指し、医師、看護師、臨床検査技師などの国家資格を取得すべく勉学に励みます。医学類では６年間、看護学類、医療科学類では４年間、一般教育から専門分野まで幅広い学問分野にわたって、一貫教育を行います。医療や医学研究にあっては考え方が日々変化し、知識量も急激に増大しています。「自分で問題を考え、解決する」力と方法を習得して、医療現場で適切に諸問題を解決する能力を養うことを目標としています。

○ 学群 URL
http://www.md.tsukuba.ac.jp/igakugun

体育専門学群

優れた運動技能と幅広い運動経験を基盤に、体育・スポーツ及び健康に関する総合的な知識と最新の科学的知見を活かしながら、諸所の問題解決を図れる知・徳・体を具備した体育・スポーツ界のリーダーを育成します。1、2 年次には運動実技と体育・スポーツ・健康に関する基礎的な理論を学び、3 年次からは、体育・スポーツ学、コーチング学、健康体力学等、より深く体育・スポーツ・健康に関して学びます。

○ 学群 URL
http://www.taiiku.tsukuba.ac.jp/gakugun

芸術専門学群

美術に関するさまざまな理論的問題を学ぶ芸術学専攻、造形芸術の基礎的知識と技術、豊かな感性と高い創造性を伴った表現力を養う美術専攻、あらゆる造形表現に共通する形態･色彩･材料などの造形要素と表現の可能性を追求するとともに、さまざまな応用表現を実技と理論を通して多角的に学習する構成専攻、価値あるデザインの創造を実践的に学ぶデザイン専攻の４つの主専攻があります。専門学群としての深い専門能力を育成し、柔軟な発想力と豊かな表現力を備え、創造的活力に満ちた美術及びデザインの専門家を育成することを目的とします。

○ 学群 URL
http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/school

大学院研究科

大学院には修士課程、博士課程及び専門職学位課程があります。また、社会人再教育のための夜間大学院・昼夜開講制の実施、短期在学コース・長期履修学生制度・博士後期課程「早期修了プログラム」等標準修業年限の弾力化、筑波研究学園都市等の研究機関の施設・設備や人的資源を活用して大学院教育を行う連携大学院方式の実施等の教育方法・形態の多様化を図っています。

教育研究科

修士
- スクールリーダーシップ開発
- 教科教育

人文社会科学研究科

修士
- 国際地域研究

一貫制博士（5 年制）
- 哲学・思想
- 歴史・人類学
- 文芸・言語

博士前期 → 博士後期
- 現代語・現代文化
- 国際公共政策
- 国際日本研究

ビジネス科学研究科（東京キャンパス）

博士前期 → 博士後期
- 経営システム科学 ― 企業科学
- 企業法学 ― 企業科学

専門職学位
- 法曹（3年制）
- 国際経営プロフェッショナル（2年制）

数理物質科学研究科

博士前期 → 博士後期
- 数学
- 物理学
- 化学

博士後期
- ナノサイエンス・ナノテクノロジー

博士前期 → 博士後期
- 電子・物理工学
- 物性・分子工学

3 年制博士
- 物質・材料工学

システム情報工学研究科

博士前期 → 博士後期
- 社会工学
- リスク工学
- コンピュータサイエンス
- 知能機能システム
- 構造エネルギー工学

生命環境科学研究科

一貫制博士（5 年制）
- 環境バイオマス共生学

博士前期 → 博士後期
- 地球科学 ― 地球環境科学、地球進化科学
- 生物科学
- 生物資源科学 ― 国際地縁技術開発科学、生物圏資源科学、生物機能科学、生命産業科学
- 環境科学、国際連携持続環境科学 ― 持続環境学

3 年制博士
- 先端農業技術科学

人間総合科学研究科

修士
- スポーツ健康システム・マネジメント（東京キャンパス）
- フロンティア医科学
- スポーツ国際開発学共同
- 国際連携食料健康科学

博士前期 → 博士後期
- 教育学 ― 教育基礎学、学校教育学
- 心理 ― 心理学
- 障害科学
- 生涯発達（東京キャンパス） ― 生涯発達科学（東京キャンパス）
- 感性認知脳科学
- 看護科学
- 体育学 ― 体育科学
- 芸術
- 世界遺産 ― 世界文化遺産学

3 年制博士
- ヒューマン・ケア科学
- スポーツ医学
- コーチング学
- 大学体育スポーツ高度化共同

医学の課程（4 年制）
- 生命システム医学
- 疾患制御医学

図書館情報メディア研究科

博士前期 → 博士後期
- 図書館情報メディア

グローバル教育院

大学または大学院課程で分野を横断する学位プログラム等の実施・運営を行うことを目的として、平成23年12月に「筑波大学グローバル教育院（School of Integrative and Global Majors:SIGMA）」を設置しました。グローバル教育院では、「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された学位プログラムや、本学が独自に開設する学術分野横断的な学位プログラムの運営を行っています。これらの学位プログラム等を束ね、教育担当部局と同様に教育ができるように組織し、全学的な運営を行うためにグローバル教育院長は教育担当副学長が担当しています。

学位プログラム (学士課程)

地球規模課題学位プログラム (学士)

学士課程横断型、文理融合型の4年間の英語プログラムです。地球規模課題全般を俯瞰する幅広い基礎知識を身に付け、環境と人間に関する課題を解決するために分野を超えて必要な情報・技術を自ら意欲的に求めていく姿勢をもち、多くの選択肢の中から最適解を意思決定できる人材を養成します。

○ プログラムURL　http://bpgi.tsukuba.ac.jp/jp

学位プログラム (大学院課程)

ヒューマンバイオロジー学位プログラム (一貫制博士課程)

さまざまな学問領域の垣根を越え、ヒトを宇宙や地球の一つの生命体として捉え、地球環境と生物進化の時間軸でヒトのからだの仕組みとホメオスタシスを理解する「ヒト」に関する生物学です。❶ヒトの生物学に関する概念を理解し、❷DNA 解析を中心とした従来のセントラルドグマでは扱えない生命素子 (epigenetic biomolecules) の科学とその制御技術の専門力を修得し、❸さらに、これらの知見を社会の現場における課題を解決するために活用するための目利き力、突破力、完結力を涵養します。

○ プログラムURL　http://hbp.tsukuba.ac.jp

エンパワーメント情報学プログラム (一貫制博士課程)

博士課程教育リーディングプログラムとして、平成 25 年度に文部科学省により新規に採択されました。本プログラムでは、「人の機能を補完し、人とともに協調し、人の機能を拡張する情報学」として、新たに「エンパワーメント情報学」を創設し、これからの人類社会にとって、安全性、利便性、心の豊かさの向上といった様々な観点から、人の生活の質を向上させる工学システムを創出できる人材の育成を目指しています。

○ プログラムURL　http://www.emp.tsukuba.ac.jp

ライフイノベーション学位プログラム (区分制博士課程)

筑波研究学園都市や海外での素晴らしい学びの機会を提供し、4つの専門領域「病態機構、創薬開発、食料革新、環境制御」における世界有数の専門家と学生間の相互作用を促進します。つくばライフサイエンス推進協議会に属する16機関の研究者に加え、オックスフォード幹細胞研究所、ワーゲニンゲン大学、モンペリエ大学、ボルドー大学などの海外のトップクラスの大学からの教授陣が参画し、社会での即戦力となる教育研究を実施します。

○ プログラムURL　http://tlsi.tsukuba.ac.jp

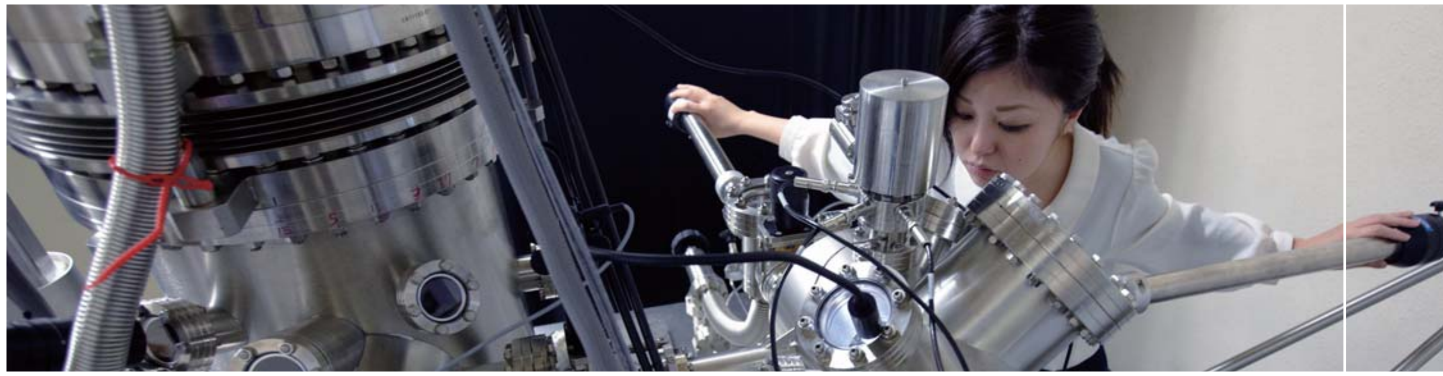
寄附講座・寄附研究部門

産学連携を推進するとともに、大学における教育研究の豊富化、活発化を図ることを目的とし、企業等からの寄附を有効に活用して、筑波大学に「寄附講座」もしくは「寄附研究部門」を設置し、運営する制度です。
この制度により、2017(平成29)年5月1日現在、寄附講座24件(社会連携講座1件、既に終了した講座7件を含む。)、寄附研究部門4件を設置しています。

寄附講座（平成 29 年 5 月 1 日現在）	寄附者
人 JA 茨城県厚生連寄附講座臨床研究地域イノベーション学講座	茨城県厚生農業協同組合連合会
人 茨城県寄附講座地域医療教育学	茨城県
生 環境防災学講座	(財)砂防フロンティア整備推進機構
人 茨城県寄附講座地域医療システム講座	茨城県
人【社会連携講座】地域医療・先端医工連携講座	(株)日立製作所
人 循環器不整脈学寄附講座	日本メドトロニック(株) ディーブイエックス(株)
人 土浦市地域医療教育学講座	茨城県土浦市
人 茨城県寄附講座小児地域医療教育学	茨城県
数 トヨタ自動車・デンソーパワーエレクトロニクス寄附講座	トヨタ自動車(株)・(株)デンソー
数 富士電機パワーエレクトロニクス寄附講座	富士電機(株)
人 総合周産期医学講座	つくば市
人 生 自然保護寄附講座	岡本和子 氏(個人)
人 寄附講座県南地域医療教育学	(社)取手市医師会
人 JA 茨城県厚生連寄附講座脳卒中予防・治療学	茨城県厚生農業協同組合連合会
人 JA 茨城県厚生連寄附講座先進消化器外科学	茨城県厚生農業協同組合連合会
人 JA 茨城県厚生連寄附講座運動器再生医療学	茨城県厚生農業協同組合連合会 バイオメット・ジャパン合同会社
人 循環器病態医学講座	ボストン・サイエンティフィックジャパン(株) 日本ライフライン(株) 日本光電工業(株) バイオトロニックジャパン(株) 東レ(株) センチュリーメディカル(株) 日本ベーリンガーインゲルハイム(株)

寄附研究部門（平成 29 年 5 月 1 日現在）	
病 不整脈次世代寄附研究部門	セント・ジュード・メディカル(株)
病 茨城県災害・地域精神医学寄附研究部門	茨城県
病 応用分子イメージング学寄附研究部門	(医)豊智会
眠 セブン・ドリーマーズ・臨床睡眠医科学研究部門	セブン・ドリーマーズ・ラボラトリーズ(株)

設置組織凡例　人 人間総合科学研究科　生 生命環境科学研究科　数 数理物質科学研究科　病 附属病院　眠 国際統合睡眠医科学研究機構 (IIIS)



特色ある学生支援

T-ACT つくばアクションプロジェクト

学生の「やってみたい！」を応援するプロジェクトが T-ACT です。学生が思いついた企画を実現したり、ほかの人が立てた企画に参加したりして、筑波大学を学生の活動創出の場にしてほしい、そんな願いがあります。「T-ACT フォーラム」が設置され、専任教員がいつでも相談に乗っています。

障害学生支援・LGBT 学生支援

筑波大学では、開学以来多くの障害のある学生が学んでおり、積極的に支援しています。現在、視覚障害、聴覚障害、運動障害、内部障害、発達障害等の障害のある 100 名以上の学生が、学群・学類と大学院のさまざまな分野に在籍しています。対応ガイドラインを定め、LGBT 学生への支援も行っています。

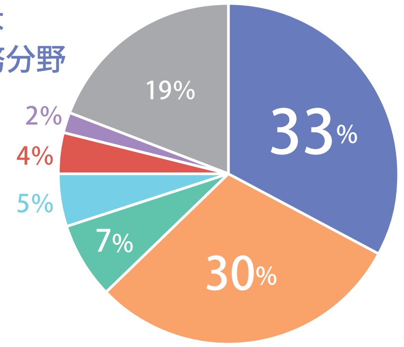
Global Village

2017(平成 29)年 4 月に、Global Village(グローバルヴィレッジ)がオープンしました。この学生宿舎は、これまで本学には無かった日本人学生と留学生の混住シェアハウスタイプです。いろいろな国の学生が一緒に生活し、交流を深めがなら国際感覚を磨くことができます。

ベンチャー支援と産学提携の推進

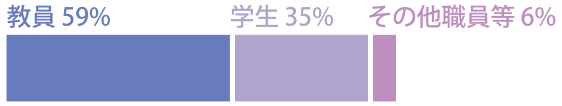
平成 29 年 5 月 1 日現在
ベンチャー設立累計 118 社

主な業務分野



- 情報通信
- ライフサイエンス
- 環境
- ナノテクノロジー・材料
- 製造技術
- エネルギー
- その他

主な関係者



「筑波クリエイティブ・キャンプ」での現役の企業経営者と参加者のディスカッション風景

研究成果を広く社会に還元していくことは、社会に貢献するという大学の重要なミッションの一つです。筑波大学は、大学発ベンチャーの育成及び共同研究の促進により、研究成果の産業界への技術移転を促し、社会経済に変革をもたらすイノベーションの創出に寄与しています。

国際産学連携本部を中心とした起業・技術移転支援により、筑波大学のベンチャー設立累計は、我が国の大学でトップクラスの実績を有しています。

「筑波クリエイティブ・キャンプ・ベーシック」(入門編)及び「筑波クリエイティブ・キャンプ・アドバンスト」(発展編)では、授業の一環として現役の企業経営者や起業経験者による実践的な起業家教育を行っています。

共同教育研究施設等

研究・教育活動に必要な大型、あるいは特殊な施設・設備の共同利用や、教職員、学生に対する各種の研究・教育上のサービスの提供などを目的として、共同利用施設を設置しています。

全国共同教育研究施設

大学の枠を超えて全国規模で人的交流、情報交換及び共同研究を行い、関係分野における全国の研究者等に研究拠点機能を提供します。

計算科学研究センター

宇宙から生命環境まで、科学諸分野と計算機科学の研究者が協働し、学際的研究を推進すると同時に、そのような研究に最適な計算機の開発・製作を行っています。

つくば機能植物イノベーション研究センター

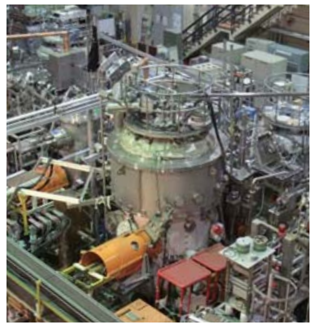
センター内に設置されている遺伝子実験センターは、遺伝子の構造・機能に関する先端的な研究を実施する施設です。

下田臨海実験センター

多様な海洋生物が生息する豊かな生物環境を利用して海洋生物学とその関連分野の研究を推進しています。充実した教育研究陣を擁する国内有数の施設です。

プラズマ研究センター

世界最大のタンデムミラー型核融合実験装置を用いて、「プラズマ核融合エネルギー」に関する最先端の研究とそれを通じた人材育成に取り組んでいます。



学内共同教育研究施設

- 生命領域学際研究センター
- グローバルコミュニケーション教育センター
- 体育センター
- アドミッションセンター
- 北アフリカ研究センター
- 学術情報メディアセンター
- 研究基盤総合センター
- サイバニクス研究センター
- アイソトープ環境動態研究センター
- 人工知能科学センター
- 保健管理センター

開発研究センター

- 藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター
- プレシジョン・メディスン開発研究センター
- 未来社会工学開発研究センター
- スポーツイノベーション開発研究センター
- ヘルスサービス開発研究センター

部局附属教育研究施設等

- ビ 大学研究センター
- 数 学際物質科学研究センター
- 生 山岳科学センター
- 人 教育開発国際協力研究センター
- 体 ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター
- 医 生命科学動物資源センター
- 医 トランスボーダー医学研究センター
- 図 知的コミュニティ基盤研究センター
- 病 陽子線医学利用研究センター
- 病 つくばスポーツ医学・健康科学センター
- 学 特別支援教育研究センター
  理療科教員養成施設

設置部局凡例：ビ ビジネスサイエンス系　数 数理物質系　生 生命環境系　人 人間系　体 体育系　医 医学医療系　図 図書館情報メディア系　病 附属病院　学 附属学校教育局

国際交流

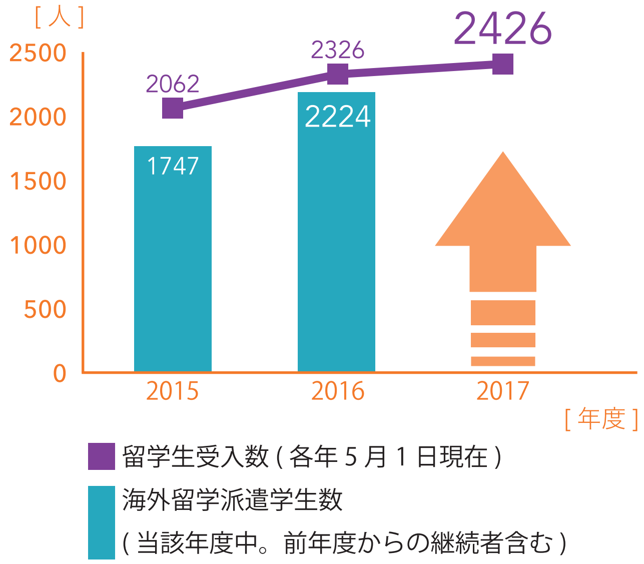
筑波大学は、国際的な学術交流によって、学術研究水準の向上を図り、国際的視野を持つ人材の養成を目指しています。
その目的のために、外国の大学との交流協定による学生や教員の海外派遣、単位互換制度、外国人教員や研究者の受け入れなどを行っています。また、外国人留学生の受け入れも積極的に進めています。

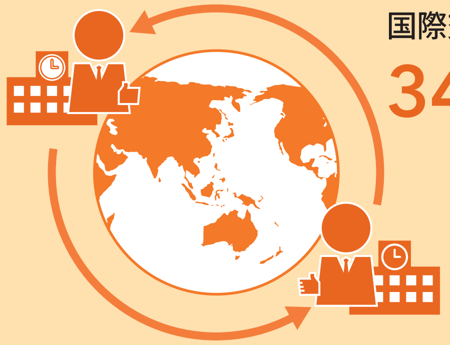
留学生の受入

筑波大学は、100 を超える国・地域から留学生を受け入れています。英語のみで学位が取得できる約 40 のプログラムを提供する一方、レベルに合わせたきめ細やかな日本語教育が受けられることも特徴です。

学生の海外留学

派遣大学数は、平成 28 年度で 180 校にもおよび、国別ではアメリカ合衆国が最も多く、次いで中国、フランス、韓国、イギリスの順となっています。派遣学生の比率は学群生が約 4 割、大学院生が約 6 割です。





国際交流協定校

341 / 65 ケ国・地域

CiC パートナー

5 協定

大学間交流

140 協定

部局間交流

196 協定

2017(平成 29) 年 5 月 1 日現在

留学支援の奨学金制度

筑波大学海外留学支援事業 はばたけ！筑大生	海外研修プログラムにより、派遣される学生の海外派遣を支援する本学独自の制度です。 支援額 50,000~200,000 円 (プログラム・派遣内容により異なる)
つくばスカラシップ 交換留学支援奨学金	筑波大学が学生交流に関する協定を締結している大学に、短期間 (6ケ月～1年以内) 留学する学生に奨学金を支給する本学独自の制度です。 奨学金 60,000~100,000 円 (月額・金額は留学先地域により異なる)
海外留学支援制度 (協定派遣)	筑波大学が学生交流に関する協定を締結している大学に、本学の教育組織等が実施するプログラムにより、1年以内の期間派遣させる学生に、独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO) が奨学金を支給する制度です。 奨学金 60,000~100,000 円 (月額・金額は留学先地域により異なる)

海外オフィス

筑波大学では、数多くの国際交流事業を展開しています。その一つとして、教育研究活動の国際連携を推進するために、海外オフィスが設置されています。現在､12か国･地域に13か所のオフィスがあり､各オフィスのミッションに基づき、優秀な留学生の確保、派遣学生の支援、関係大学・機関等との学術交流活動の促進・支援、同窓会ネットワーク構築等、さまざまな活動を展開しています。

トランスボーダー大学への取り組み

スーパーグローバル大学創成支援プログラム

筑波大学は、平成26年度文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」タイプA(トップ型) に採択されました。本学の構想で核となる Campus-in-Campus(CiC)及び科目ジュークボックスシステムなどの取り組みを通して、「開かれた大学」から「我が国の高等教育と社会を世界に開き、率先して世界の未来を拓く大学」への飛躍を成し遂げることを目指します。

Campus-in-Campus(CiC)

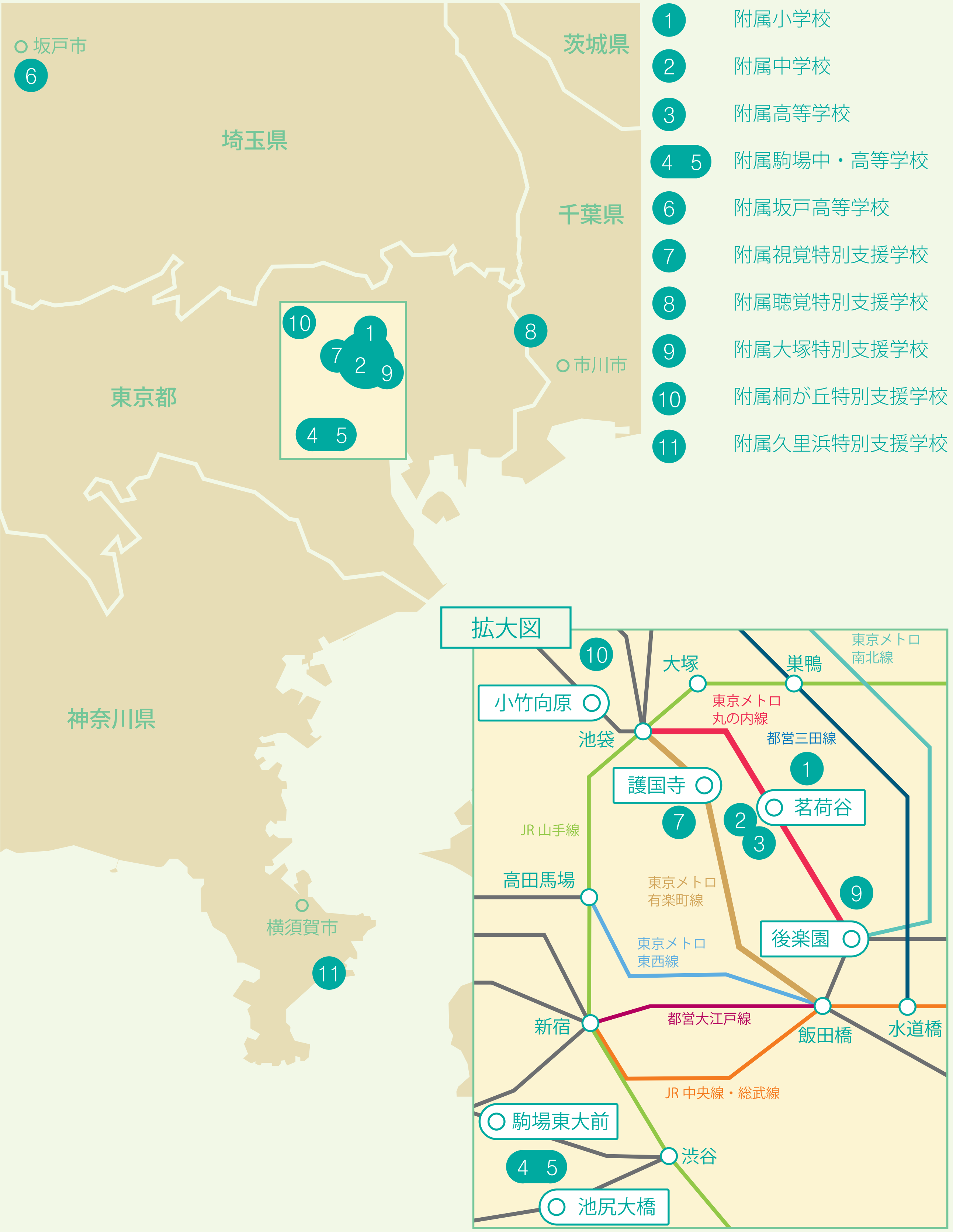
筑波大学と世界中のパートナー大学とでキャンパス機能を相互に共有し、学生や教職員・研究者が自由に教育研究交流できる環境を実現する構想が Campus-in-Campus（CiC）です。この CiC 及びそれを基盤とした海外大学との授業の共有（科目ジュークボックスシステム)、卓越した業績を誇る教育研究ユニットの共有などの取り組みを通して、学生・教職員のモビリティを高め、国境や機関の壁を越えた武者修行を促進するとともに、世界中の資源を積極的に活用した教育研究を実現します。

CiC パートナー大学

ボルドー大学【フランス】
国立台湾大学【台湾】
サンパウロ大学【ブラジル】
マレーシア工科大学【マレーシア】
カリフォルニア大学アーバイン校（リサーチパートナー）【アメリカ】

附属学校

附属学校には社会の要請に基づく国際的視野をもった人材の育成を目指し、基礎学力の修得や、生涯学習体系の基礎モデルとなる先導的教育を推進するため、①先導的教育拠点②教師教育拠点③国際教育拠点という3つの拠点構想を掲げ、大学と連携して日本及び世界の初等中等教育及び特別支援教育をリードしています。



特別支援学校

筑波大学は、視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・自閉症の5つの附属特別支援学校があります。特別支援教育の実践及び研究の推進のため、日々の教育活動を行っています。

7 附属視覚特別支援学校

我が国唯一の国立大学法人の視覚特別支援学校であり、視覚障害教育の実践を通して筑波大学の教育研究に協力・寄与しながら、「視覚障害教育のナショナルセンター」を目指しています。自主性と個性を尊重して、思考力・判断力ならびに積極的な行動力を養い、積極的に社会に参加、貢献できる人間を育むことを教育目標に掲げ、日々の教育活動を行っています。

学校 URL http://www.nsfb.tsukuba.ac.jp

8 附属聴覚特別支援学校

我が国唯一の国立大学法人の聾学校として、現在、全校幼児児童生徒数約280名の全国一の大規模校で、学校は日々活気に満ちています。筑波大学の教育的な研究に協力する附属学校の一つとして、聴覚障害児教育の可能性の追究、実践的研究の推進と発信、教育実習及び現職教育の実施を使命としています。

学校 URL http://www.deaf-s.tsukuba.ac.jp

9 附属大塚特別支援学校

子ども自身の願いや思いを大切に、自立と社会・文化への参加を目指し、発達及び可能性のより豊かな発現を図ることを教育方針に掲げ、知的障害児一人ひとりに応じた教育を行っています。併せて筑波大学の附属機関として、知的障害児の理論及び実践に関する研究を行い、教育実習の実施に協力する役割を持っています。

学校 URL http://www.otsuka-s.tsukuba.ac.jp

10 附属桐が丘特別支援学校

大学附属として国内唯一の肢体不自由児を対象とする特別支援学校であり、肢体不自由の児童生徒、及び特別支援教育に対する有効な教育方法を検討・実践しています。また、筑波大学の附属学校として肢体不自由教育の理論及び実践に関する研究を行い、教育実習の実施に当たる使命を持っています。

学校 URL http://www.kiri-s.tsukuba.ac.jp

11 附属久里浜特別支援学校

知的障害を伴う自閉症の子どもたちに対して、幼稚園及び小学校に準ずる教育を行い、併せてその障害を補うために必要な知識技能を授けるため、平成16年に筑波大学の附属学校として設置されました。個々の子供の多様な実態に応じて、適切な指導を行い、それぞれの持っている可能性を最大限に伸長することを本校における教育の基本としています。

学校 URL http://www.kurihama.tsukuba.ac.jp

附属図書館

基礎データ（平成28年度）

蔵書数	2,662,306冊
入館者数	1,036,398人
貸出冊数	307,390冊

附属図書館は、中央図書館と４つの専門図書館で構成され、筑波大学の学術情報基盤を支えています。館内ではレファレンスサービスや講習会に加え、ラーニング・アドバイザー（大学院生）による学習サポートやセミナー、ボランティアによる案内も提供されています。館内資料を活用した授業やグループ学習、芸術作品や研究成果の発表に活用できる空間も用意されています。また、貴重資料の特別展・企画展も開催しており、年間100万人に及ぶ学内外からの利用者に活用されています。

施設 URL https://www.tulips.tsukuba.ac.jp

附属病院

基礎データ

診療科数　37科
ベッド数　800床
（平成29年度）

診療状況（人/1日平均）
外来・・・1,704
入院・・・　713
（平成28年度）

附属病院は県内唯一の特定機能病院として、高度医療に特化した診療を行っています。また、医育機関としての機能も有しており、平成27年度初期研修医マッチング調査では69名と国立大学病院のうち、東京大学、東京医科歯科大学、京都大学に次いで4番目に人気の高い研修先としてランクインしています。茨城県内の医師不足に対応すべく、行政、医師会、JA ならびに企業と連携しながら地域医療再生プランにも取り組んでいます。

施設 URL http://www.hosp.tsukuba.ac.jp

本学の特色

本学は、ノーベル賞受賞者と金メダリストをともに輩出する稀にみる大学です。これまでの歴史を振り返ると、ノーベル賞は3名が受賞し、オリンピック・パラリンピックでは、現役生と卒業生・修了生を合わせ100名余りが選手として出場し、多くのメダルを獲得しています。

ノーベル賞

ノーベル物理学賞 1965

朝永振一郎
東京教育大学元学長、名誉教授

「量子電気力学、とくに超多時間理論およびくりこみ理論の展開」

ノーベル物理学賞 1973

江崎玲於奈
本学元学長、名誉教授

「半導体内及び超伝導体内におけるトンネル現象に関する実験的発見」

ノーベル化学賞 2000

白川英樹
本学名誉教授

「導電性ポリマーの発見と開発」

本学の伝統とオリンピック・パラリンピック

講道館柔道の創設者として高名な嘉納治五郎(1860-1938)は、本学のルーツとなる東京高等師範学校の校長を23年にわたって務めました。また､初のアジア出身の国際オリンピック委員会委員となり､わが国のオリンピック・ムーブメントの発展に尽くすと共に、日本が正式に選手団を派遣した1912年ストックホルム大会で2名の選手を率い団長として参加しました。同大会には、当時東京高等師範学校の学生だった金栗四三がマラソンに出場しています。

オリンピックにおける筑波大学総獲得メダル数※

金 5個　銀 7個　銅 14個

永瀬選手　写真：代表撮影 / 日刊スポーツ / アフロ
（リオデジャネイロオリンピック）

パラリンピックにおける筑波大学総獲得メダル数※

金 13個　銀 21個　銅 18個

木村選手とコーチの寺西先生（附属視覚特別支援学校）　写真：日刊スポーツ / アフロ
（リオデジャネイロパラリンピック）

※1973（昭和48）年以降に筑波大学の学生（卒業生・修了生を含む）、教職員が獲得した数

建物配置図

東京ドーム約55個分の面積にあたる258ヘクタールの敷地には、全体として森林公園を基調とした景観の中に、変化に富んだ斬新なデザインの施設がそれぞれ効率的に配置されています。

筑波大学には、正門がないのも特徴のひとつで、文字通り「開かれた大学」です。

施設名称		
東エリア	1	厩舎・第2厩舎
農林技術エリア	2	つくば機能植物イノベーション研究センター
一の矢宿舎エリア	3	一の矢学生宿舎
	4	一の矢生活センター
実験センターエリア	5	アイソトープ環境動態研究センター（環境動態予測部門）
	6	生命領域学際研究センター
	7	産学リエゾン共同研究センター
	8	プラズマ研究センター
	9	藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター
	10	エンパワースタジオ
	11	研究基盤総合センター（工作部門）
	12	研究基盤総合センター（低温部門）
	13	研究基盤総合センター（応用加速器部門）
	14	共同研究棟C
	15	研究基盤総合センター（分析部門）
	16	プロジェクト研究棟
	17	アイソトープ環境動態研究センター（放射線研究部門）
	18	アーカイブズ・中央機械室
第三エリア	19	第3体育館
	20	3A～3D，3K，3L棟
	21	工学系学系
	22	理科系
	23	共同研究棟D
	24	総合研究棟B
	25	サイバニクス研究棟
第二エリア	26	つくば機能植物イノベーション研究センター(遺伝子実験センター)
	27	生物・農林学系
	28	第1体育館
	29	総合研究棟A
	30	2A～2H棟
	31	文科系修士
	32	人間系学系
	33	環境防災研究棟
第一エリア	34	人文・社会学系
	35	中央図書館
	36	共同研究棟A
	37	共同利用棟D
	38	スチューデントプラザ
	39	1A～1H棟
	40	文化系サークル館
	41	自然系学系
	42	計算科学研究センター
本部棟エリア	43	本部棟・アネックス棟
大学会館エリア	44	講堂
	45	大学会館，筑波大学ギャラリー，UTshopきりのは
	46	総合交流会館
	47	大学会館宿泊施設
	48	学術情報メディアセンター
	49	グローバルコミュニケーション教育センター
	50	保健管理センター
	51	国際講議棟
体育・芸術エリア	52	芸術学系
	53	5C棟
	54	共同研究棟B
	55	体育科学系
	56	体育総合実験棟
	57	6A，6B棟
	58	工房〔芸術学系〕
	59	体育・芸術図書館
	60	中央体育館
	61	T-Dome
	62	スポーツ流体工学実験棟
	63	体芸食堂
	64	グローバルスポーツイノベーション棟
	65	体育センター，体育系サークル館
	66	屋内プール
	67	武道館
	68	球技体育館
	69	開学記念館
	70	総合研究棟D
体育施設エリア	71	弓道場
	72	体育合宿所
	73	クラブハウス
	74	課外活動練習施設

施設名称		
医学エリア	75	医学地区中央機械室
	76	睡眠医科学研究棟
	77	4B棟，4C棟，4D棟
	78	生命科学動物資源センター
	79	4E棟
	80	共同利用棟B
	81	人間総合科学研究科RI施設
	82	医学系学系
	83	附属病院
	84	4A棟
	85	医科学棟
	86	医学図書館，臨床講議室
	87	医学食堂
	88	第2体育館
	89	陽子線医学利用研究センター
	90	健康医科学イノベーション棟
	91	つくば臨床検査教育・研究センター
	92	次世代分子イメージングつくば画像検査センター
平砂宿舎エリア	93	平砂生活センター
	94	平砂学生宿舎
	95	グローバルヴィレッジ
	96	レジデント宿泊施設
追越宿舎エリア	97	追越生活センター，ゆりのき保育所
	98	追越学生宿舎
	99	天久保宿泊施設
	100	外国人教師等宿泊施設
春日エリア	101	7A棟
	102	春日学生宿舎　春日1号棟，春日2号棟
	103	高細精医療イノベーション棟
	104	春日講堂
	105	7B棟，7C棟
	106	図書館情報学図書館
	107	7D棟
	108	第4体育館
	109	春日弓道場
	110	情報メディアユニオン
	111	春日学生宿舎　春日3号棟
	112	春日宿泊施設
	113	春日福利厚生棟

アクセス

つくばエクスプレス (TX) ご利用の場合

秋葉原駅から
つくば駅まで快速 45 分
つくばセンターからバスで
「筑波大学中央」行
「筑波大学循環 (右回り)(左回り)」
約 10~15 分

JR 常磐線ご利用の場合

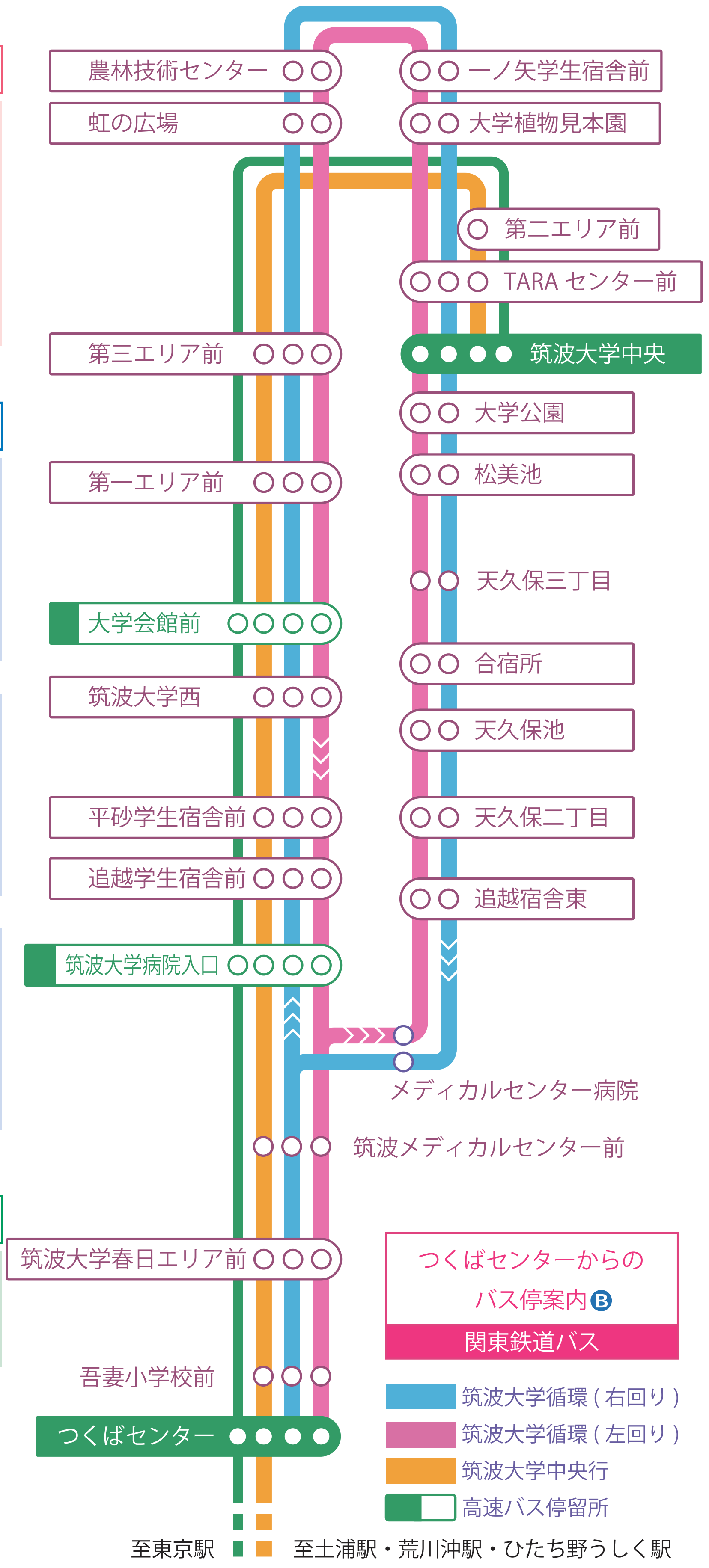
ひたち野うしく駅
バスターミナル東口から
「筑波大学中央」行バス
約 45 分
タクシーで約 25 分

荒川沖駅
バスターミナル西口から
「筑波大学中央」行バス
約 40 分
タクシーで約 25 分

土浦駅
バスターミナル西口から
「筑波大学中央」行バス
約 40 分
タクシーで約 25 分

高速バスご利用の場合

東京駅八重洲南口
「筑波大学」行バス
約 75 分



アクセス (関東)

IMAGINE THE FUTURE.

想像しよう、未来を。
地球の、環境の、
社会の、未来を。
想像できなければ、
創造はできない。
この星の未来は、
失敗できない。
創造しよう、未来を。
共に生き、持続できる、
開かれた未来を。
その扉をあける、
挑戦者になろう。

筑波大学
University of Tsukuba

www.tsukuba.ac.jp

筑波大学概要 平成29-30年度
編集・発行：筑波大学広報室
住所：〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

デザイン：福井周一（博士前期課程芸術専攻2015年次生）
デザイン監修・表紙：木村浩